

分岐点

私のターニングポイント

2004（平成16）年



東京大学農学部農業経済学科出身。（財）国民経済研究協会常務理事を経て、アルファ社会科学（株）主席研究員。立教大学兼任講師。現在、幅広い分野の統計データをグラフ化して公開する「社会実情データ図録」サイトを主宰しながら、地域調査等に従事。著作は『統計データはおもしろい!』（技術評論社、2010年）など。

2004年の主な出来事

- ・岸和田中学生虐待事件。救出当時の体重は24kg
- ・自衛隊イラク派遣
- ・製造業への人材派遣解禁
- ・スペインのマドリードで列車同時爆破テロ発生
- ・イラクで日本人人質事件、自己責任が議論に
- ・北朝鮮から拉致被害者の家族が帰国
- ・佐世保で小学校6年生女児が同級生を殺害
- ・アテネオリンピックで日本人が活躍。金メダル16
- ・沖縄国際大学キャンパス内に米軍普天間基地所属のヘリコプターが墜落
- ・ロシアでチェチェン独立派の武装集団が学校を占拠。児童ら300人が死亡
- ・日本プロ野球界で初のストライキを決行
- ・新潟県中越地震発生。新潟県で震度7。死者68人
- ・国内で鳥インフルエンザ発生が確認
- ・スマトラ島沖地震発生。津波などで22万人死亡

ヒット作品・商品・話題のモノ

- ・世界の中心で、愛をさけぶ
- ・細木数子など占いブーム
- ・「冬のソナタ」韓流ブーム
- ・新紙幣発行
- ・プロ野球に楽天ゴールデンイーグルスが新規参入

ついに次年度中には債務超過となり、職員の退職金が払えなくなるとの見通しが常務理事として私が作成していた毎月の計算書から明らかになったのは2003年の秋だったと思う。代表権者である会長に告げれば解散へのステップがはじまる。いつかはと思いながらもめげずに仕事を励んでいる職員の気持を思い、しばらく報告を逡巡したことをおぼえている。

研究員として勤務した財団法人国民経済研究協会（1945年設立）は「自主独立の純然たる民間の実証的研究機関」を標榜し、実行していた希少種というべきシンクタンクであった。私にとっては貴重な所蔵資料のそばでリサーチに血をたぎらすことのできた愛すべき職場だった。

そして会員企業の減少による経営危機から1999年に大リストラを行い、南青山から飯田橋にオフィスを移転縮小したとき図らずも私が会長（非常勤）とともに経営の責任者となり、その結果、伝統ある組織の解散の責任者ともなったのだ。

会長や職員とともに解散を決断した後、翌2004年正月から経産、農水、文部という3つの監督官庁との折衝をはじめ、役員の了承を受け、各種届出を行うとともに、年度末解散時に残存財産がゼ

ほんかわ ゆたか

本川 裕

社会実情データ図録

サイト主宰

口となるよう労務対策、所蔵資料の整理・売却、会員残余期間処理を進め、3月末には大きな混乱を生まずに解散することができた。

こうした取り組みと平行して個人的には「社会実情データ図録」と命名したWEBサイトを2月2日から作成、18日にはネット上に公開した。これは財団解散で研究と発表の機会が失われることを予想し、これまで蓄積してきたデータの収集・分析のノウハウを生かしたライフワーク的な「自主独立」サイトとして前々から考えていた企画であり、財団解散を機に実施に移したものである。

短期間で公開できたのは1ページ1図録の図録数がわずか80足らずであった。その後、日々と新規図録の作成を継続し8年経過した現在では1,000図録を越え、人々に求められる情報を提供する結果となって月間100万ページビューを記録するまでになった。

3月末の解散以降、高校の友人である衆議院議員の個人事務所の一部を借りて図録作成のかたわら清算事務を進め、9月末に法人清算を終了した。そして11月からはその議員の公設秘書時代が5年ほど続くこととなったのである。